

中宮（なかみや）古墳と黄金塚（こがねづか） 山本通5丁目



中宮「古墳碑」

俗に中宮古墳と呼ばれる一大横穴式古墳がかつて山本通5丁目にあった（現在の5丁目10-7あたり）。また、付近には以前3つも古墳があり、中宮村は大塚村とも呼ばれたという。この古墳は崩壊のおそれがあったため、1916（大正5）年11月に発掘調査を行ない、縦6.6m、横2.3mの横穴式石室を有することが確認され、剣や馬具等が出土した。その後、この古墳は失われてしまったが、現在でもその付近にある「古墳碑」が往事の様子を偲ばせてくれている。この碑は1917（大正6）年8月に建てられたもので、古墳の様子などが刻まれている。なお、この古墳は仁徳天皇の皇后・八田皇女に関係したとものだという言い伝えもあるが定かではない。

この中宮古墳の碑に程近い善照寺の西隣に

隣接する市有地の中に黄金塚が残されている。黄金塚のある土地は、かつては善照寺の庭であったが、区画整理によって市の管理するところとなった。この塚の上に、1918（大正7）年3月に建てられた「黄金塚」の碑が今でも残されている。



黄金塚



黄金塚の碑

場所：神戸市中央区山本通5丁目10-7

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著